

2022（令和4）年度 事業報告

2022（令和4）年4月1日～2023（令和5）年3月31日

学校法人 池坊学園

1. 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人 池坊学園
②所在地 京都市下京区室町通四条下る鶏鉾町 491 番地
電話番号：(075) 351-8581
URL：https://www.ikenobo-c.ac.jp

(2) 建学の精神

本学は、550余年に及ぶ歴史と伝統をもつ池坊華道の根本理念たる「和と美」を建学の精神として1952年4月に創設されました。「和と美」は、池坊華道発祥の地、六角堂の開祖である小野妹子が仕えた聖徳太子の十七条憲法の本旨です。「和」とは個人の内面的な「調和」「温和」であり、生活環境、自然との「調和」、人々の「平和」を目指す日本人の精神性です。そして、このような「和」の世界観を表出する「美」、「和の美」に日本の文化の結晶、「美の和」が認められるのです。

(3) 学校法人の沿革

1951(昭和26)年	・池坊華道会全国支部長会議で池坊学園設立案可決
1952(昭和27)年	・学校法人池坊学園、池坊学園短期大学（以下短大という）設置認可 ・短大開学（4月1日）第1回入学者は国文科、服飾科 計43名 ・池坊学園実践学院開学
1954(昭和29)年	・短大卒業者のための華道研究科を付設（1967年、研修科に改称）
1960(昭和35)年	・池坊学園お茶の水学院開学
1962(昭和37)年	・短大国文科に文芸と教職の選択コース制 ・服飾科を生活科学科に改称し、服飾、家政、教職の3選択コース制
1966(昭和41)年	・「池坊学園短期大学」を「池坊短期大学」に改称 ・「池坊学園実践学院」を「池坊文化学院」に改称 ・「池坊学園お茶の水学院」を「池坊お茶の水学院」に改称
1969(昭和44)年	・短大生活科学科を「家政科」に改称
1980(昭和55)年	・短大の一般教育科目中の総合科目として、「華道と現代生活」が正課に認可
1985(昭和60)年	・短大の国文・家政両科の選択コース廃止
1991(平成3)年	・一般教育科目の分野区分を廃止し、共通科目として名称変更
1993(平成5)年	・短大の共通科目中の総合科目として、「茶道と伝統文化」が正課に認可
1995(平成7)年	・学舎改築第1期棟「美心館」竣工（旧美心館）
1997(平成9)年	・学舎改築第2期棟「洗心館」竣工（旧洗心館） ・短大国文科を「日本語日本文化学科」に家政科を「生活文化学科」に改称

1998(平成10)年	・博物館学課程設置
1999(平成11)年	・学舎改築第3期棟「和心館」竣工 ・和心館に池坊短期大学むろまち美術館・体育館を設置
2000(平成12)年	・短大日本語日本文化学科を「文化芸術学科」に、生活文化学科を「環境文化学科」に改組転換
2001(平成13)年	・華道文化コース設置
2004(平成16)年	・ビューティアートコース設置
2005(平成17)年	・中庭「コートるり」を整備
2006(平成18)年	・池坊短期大学化粧文化研究センター設置
2007(平成19)年	・池坊華道文化研究所を池坊短期大学付設機関に移設 ・むろまち美術館を「むろまちアートコート」に改装
2008(平成20)年	・製菓衛生師養成施設設置認可（製菓クリエイトコース設置） ・フラワーマネジメントコース設置 ・ブライダルプランナーコース設置
2010(平成22)年	・医療クラークコース設置 ・池坊文化学院正科生募集停止
2012(平成24)年	・創立60周年記念式典 ・ビューティアートコースをメイクアドバイザーコース・トータルビューティーカーコースに設置変更 ・むろまちアートコート閉館、池坊お茶の水学院閉校
2014(平成26)年	・フラワーマネジメントコースと華道文化コースをいけばな・花デザインコースに設置変更 ・メイクアドバイザーコースがトータルビューティーカーコースに統合
2015(平成27)年	・幼児保育学科および保育士養成施設設置認可
2016(平成28)年	・幼児保育学科設置
2019(令和元)年	・文化芸術学科の入学定員(50→70)/収容定員(100→140)の変更 ・環境文化学科の入学定員(100→90)/収容定員(200→180)の変更 ・幼児保育学科の入学定員(100→90)/収容定員(200→180)の変更
2022(令和4)年	・幼児保育学科の入学定員(90→50)/収容定員(180→100)の変更 ・国際経営情報コース設置 ・池坊短期大学創立70周年記念誌作成

(4) 設置する学科・コースの入学定員、学生数等の状況

※各年度とも5月1日現在(2022年度より定員変更)

学科名	コース名	入学定員	収容定員	2020(令和2)年度		2021(令和3)年度		2022(令和4)年度	
				入学者数	在籍者数	入学者数	在籍者数	入学者数	在籍者数
文化芸術	いけばな・花デザイン	70	140	23	38	19	44	17	38
	ブライダルプランナー			26	48	15	41	21	34
	医療クラーク			18	43	13	31	15	27
小計		70	140	67	129	47	116	53	99
環境文化	製菓クリエイト	90(130)	180(260)	27	41	17	41	18	34
	トータルビューティ			56	97	44	98	50	90
	エステティシャン			6	17		6		
	国際経営情報							27	27
小計		90	180	89	155	61	145	95	151
幼児保育		90(50)	180(100)	64	130	69	130	50	112
合計		250	500	220	414	177	391	198	362

(5) 2022年度卒業生数

学科名	卒業生数
文化芸術学科	43人
環境文化学科	51人
幼児保育学科	58人
合計	152人

(6) 役員(理事・監事)

	常勤 非常勤	氏名	現職
理事長	常勤	池坊 美佳	華道家元池坊 青年部代表
理事	常勤	桶谷 守	池坊短期大学 教授(学長)
常務理事	常勤	郷端 清人	池坊短期大学 学長・IR室 室長
理事	常勤	松井 邦子	池坊短期大学 教授(副学長)
理事	非常勤	岡山 栄雄	宗教法人頂法寺 顧問税理士
理事	非常勤	加賀 裕郎	同志社女子大学 特別任用教授
理事	非常勤	小林 章博	弁護士法人中央総合法律事務所 京都事務所代表 弁護士
理事	非常勤	土屋 郁剛	池坊文化学院学院長 池坊中央研修学院准教授
理事	非常勤	波頭 亮	株式会社 XEED 代表
理事	非常勤	松井 孝治	慶応義塾大学 教授
監事	非常勤	小林 一郎	(社福)むろまち会理事、小林一郎司法書士・土地家屋調査士事務所
監事	非常勤	平岡 彰信	清友監査法人 社員 公認会計士

2023年3月31日現在

(7) 評議員

	常勤 非常勤	氏名	現職
評議員	常勤	桶谷 守	池坊短期大学 教授 (学長)
評議員	非常勤	土屋 郁剛	池坊文化学院学院長 池坊中央研修学院准教授
評議員	非常勤	岡山 栄雄	宗教法人頂法寺 顧問税理士
評議員	非常勤	松井 孝治	慶応義塾大学 教授
評議員	非常勤	加賀 裕郎	同志社女子大学 特別任用教授
評議員	常勤	池坊 美佳	学校法人池坊学園理事長 華道家元池坊青年部代表
評議員	非常勤	大島 利郎	(一財)池坊華道会 評議員
評議員	非常勤	小野 美智子	(一財)池坊華道会 参与
評議員	非常勤	優谷 省子	(一財)池坊華道会 評議員
評議員	非常勤	城野 真理子	池坊京都支部 支部長
評議員	非常勤	西原 芙美香	(一財)池坊華道会 理事
評議員	常勤	松井 邦子	池坊短期大学 教授 (副学長)
評議員	常勤	伊東 光子	池坊短期大学 教授
評議員	常勤	岡田 吉光	池坊短期大学 教学事務部長
評議員	常勤	森川 佳代	池坊短期大学 教授
評議員	常勤	林 俊之	池坊短期大学 教授
評議員	非常勤	村田 久美子	池坊短期大学同窓会 会長
評議員	非常勤	前田 正美	(一財)池坊華道会 参与
評議員	常勤	上野 絵理子	池坊短期大学同窓会副会長 池坊学園総務部課長
評議員	非常勤	森田 信子	池坊短期大学同窓会 理事
評議員	非常勤	山本 光代	華道家元池坊総務所 総務課課長
評議員	常勤	郷端 清人	池坊短期大学 学長・IR室室長
評議員	非常勤	小林 章博	弁護士法人中央総合法律事務所 京都事務所代表 弁護士
評議員	非常勤	亀田 晃巖	眞宗大谷派 唯明寺 住職
評議員	非常勤	波頭 亮	株式会社 XEED 代表
評議員	非常勤	中永 健史	京都市総合教育センター 顧問

2023年3月31日現在

(8) 教職員の概要

①教員役職

学長	桶谷 守
副学長	松井 邦子
教学部 部長	中西 智江
キャリア支援部 部長	藤井 真
入学広報部 部長	笠松 優子
文化芸術学科 学科長	森川 佳代
環境文化学科 学科長	林 俊之 (8月まで) 竹中 宏文 (9月より)
幼児保育学科 学科長	岩野 勝人
図書館 館長	吉田 直子
華道文化研究所 所長	松井 邦子

②教員数 (2022年5月1日現在)

所属	教授	准教授	講師	計
文化芸術学科	2	1	2	5(5)
環境文化学科	4	2	1	7(7)
幼児保育学科	3	2	3	8(8)
計	9	5	6	20(20)
短期大学全体	3	1	0	4(4)
合計	12	6	6	24(24)

※ () 内は短大設置基準上で必要な教員数

③年齢別教員数 (2022年5月1日現在)

20代	30代	40代	50代	60代	70代
0	1	7	8	6	2

④専任教員数と非常勤教員数の比率 (2022年5月1日現在)

項目	専任教員	非常勤教員
教員数比率	22%	78%
担当コマ数比率	47%	53%

⑤専任教員1人当たり学生数 15.1人

⑥専任職員数 24人

(9) 学園組織図



(10) 会議体系

学校法人池坊学園 会議体

法人	教学・事務部門
理事会	教授会
常任理事会	文化芸術学科会議
評議員会	環境文化学科会議
監事会議	幼児保育学科会議
人事委員会	教学ミーティング
事務責任者ミーティング	教職課程委員会
花きらきら・学生会・大学祭委員会	
ハラスメント対策委員会	学生支援委員会
衛生委員会	国際学生担当者会議
	F D委員会
	S D委員会
	入試委員会
	図書館運営委員会
	自己点検評価委員会

2. 事業の概要

(1) 学園の基本方針

2022年度の諸政策を実施していくにあたっては、あらゆる事業において、選択と重点化・集中化を徹底し、全学構成員が一致・協力して進めることを基本方針とした。軸となる主要な方針は、以下の通りである。

- ① 学園・短大を持続可能な学校法人・短期大学として発展していくことを目的に、今後のあらゆる活動を展開する。
- ② 「和と美」すなわち、和を願い重んずる心を美しく表現できる人材を育成するという精神の下に多様な学生を受入れ育成できる、コンパクトに整備された教育機関にする。
- ③ したがって、学園・短大の全ての活動について、現在の所有資産・資金・組織力に立脚し、計画ならびに遂行を現実的に実施していく。
- ④ 学園・短大の経営状況については、極力、構成員に説明し、意見を募り、今後取り組む諸政策に理解を求めることで、全学一致となった改革を進める。
- ⑤ より広範囲な教育活動(エクステンションや文化学院の今後、その他の教育機関の設置等)については、調査・研究・計画の立案は可能なかぎり継続して行う。

(2) 社会的責任を果たす経営体制の整備と強化

2022年度は、学長・理事長が交代となることから、新たな学園を目指して社会的責任を果たす経営体制の整備と強化を図ることとし、2021年度に引き続き次のことを進めた。

これまで取り組んできた、①常任理事会を会議体運営の要とする、②業務執行が合理的に機能するよう日々の組織改革と業務改革を積み重ねていく、③個々の課題を明らかにするとともに、その協議・解決・処理の母体となる部署や会議体の明確化、および権限と責任所在の明確化に努める、④教職員の能力・資質の向上に取り組み、意欲を持って働ける環境づくりを進める、などを目標として取り組んだ。

(3) 学則の改正

学科再編および短大設置基準の改正に伴い、2023年度より以下の点を改正する。

- ① 2023年度に文化芸術学科を募集停止するため、入学・収容定員、教育目標、授業科目、履修単位数を見直し。
- ② 短大設置基準の改正に伴い、授業形態で区別していた単位数の計算方法を統一。
- ③ 3年次以上(留年生)の授業料算出基準をより分かりやすく修正。

(4) その他規程の整備・改正

池坊短期大学学校納付金納入に係る事務取扱規程

- ・華道実習費および花材費を見直したことによる規程内の金額修正

(5) 教育・研究の事業概要

【1】教学改革の推進

2022年度に進めた主な教学改革は、2021年度に整備した入試、カリキュラム、学生支援の3つの連動する課題を軸とし、教学全体の点検・検証を行いつつ、2022年度新設となる国際経営情報コースの運営を軌道に乗せるよう進めた。また、2020年度に整備したICTについても、この新コースのカリキュラムと連携しながら、さらなる活用の広がりを進め、教学事務の合理化を図った。そして、2023年度に予定している学科の再編に向け、これまでに行った改革の延長線上にあることを基本としつつも、選択と集中による教育科目の整理を行い、社会人基礎力および専門職能力の育成を効果的かつ効率的に行う教育課程の整備を行った。具体的な取り組みは次の通りである。

【2】学生サポートの実施

①全学的な学生支援

多様な学生をフォローするサポートチームとしての「学生支援委員会」は、指導実績を積み上げながら一定の成果を得てきた。コロナ禍で不安を抱える学生のサポートを行いつつ、授業対応を中心に学園祭や卒業展等の行事を含め、教育効果の高い学生支援を行ってきた。今後も多様な問題や障害を抱える学生に丁寧な対応を行いつつ、本学の特長的な組織として強固な体制にしていく。

②就職支援

「近視眼的にならない進路選択」への支援を実施した。各種講座や就職決定まで継続する個別対応を通じ、学生の適性やスキルに基づいた現実的なアドバイス・指導を繰り返した結果、2022年度卒業生は99.2%と高い就職率を維持することができた。

③卒業後3年サポート

卒業後3年サポートが浸透したことで、活用する卒業生は増加傾向にある。変化の激しい昨今の状況から、対人関係や業務内容の悩みを抱える卒業生は多い。適宜、転職相談を含めた面談を実施した。また、卒業生に対するSNSによる情報発信や現況調査も継続して行った。

④インターンシップと産学連携

継続するコロナ禍の影響から、教育課程におけるインターンシップの実施は未だ実現していないが、新設の国際経営情報コースを中心に、各授業科目内で企業と連携した演習を徐々に開始し始めた。「産学連携プログラム」も同様の状況であるが、コロナ禍の影響が明ける2023年度に向け、積極的な活動を開始するための準備としての情報収集を行った。

【3】いけばな教育

①いけばなカリキュラムの再整備と学修成果

2021年度より本学の教育課程に反映した「いけばなと現代生活」の新カリキュラムについて、2022年度はその学修効果の点検・検証を実施してきた。その上で、いけばな教育の学修成果のひとつである華道免許状は、華道を基軸とする本学の教育理念に照らし卒業後も活用できるよう、履修した全学生が取得する仕組みを構築した。

②いけばなの学習指導要領作成

教育現場における「いけばなの指導要領」について、全国発信による本学ブランドの向上を図る取組を2022年度も進めてきた。その成果は本学紀要で発表し、幼稚園～高等学校の学習指導要領に基づいたいけばな学習のカリキュラム融合を、引き続き目指していく。文化庁移転が完了し、京都市の中学校で華道体験が取り入れられたことを好機とし、今後も華道文化研究所、華道家元と連携しながら進めていく。

【4】研究・学外連携

池坊文化学会では、2022年度も学会誌『池坊文化研究第4号 文化環境学第10号』を発行し、研究の発表の場として多様な研究成果が掲載できた。また、研究大会としては外部から世界的に活躍するピアニストを招聘して、音楽における「和と美」を考察する機会を提供している。華道文化研究所は、七十周年を目途とした本学園史・短期大学史の編纂に傾注し、公刊や公表につなげられる原稿を仕上げている。また、外部資金の獲得や学外連携については、残念ながら獲得には至らなかったが、科研費に2名が応募し、積極的な研究姿勢を継続している。

【5】学生募集の広報戦略

2023年度学生募集の活動は、前年度の反省を踏まえ、コロナ禍を考慮したWEB戦略の強化や競合校の動向を見据えたAO入試制度の見直し等を図って臨んだ。しかし、中堅私大合格者の大幅増による影響は大きく、133名の入学者という不本意な結果になった。今後コロナ禍が明けることを見越し、高校訪問による直接広報、学生目線のSNS広報を強化し、京都・滋賀を中心とするオープンキャンパス動員、AO入試による早期の囲い込みで定員充足の達成を目指す。

【6】高大連携・大学連携の活性化

2022年度は私立高校2校、日本語学校1校と新たに連携協定を締結した。この協定校との取組のひとつとして、高校生が本学の授業科目を先取り履修し、本学入学時の単位として認定する「未来先取り講座」を新規企画し開始した。このような本学の専門性を活かした、本学と高等学校がお互いに有益となる連携事業を今後も拡充していきたい。

【7】組織・施設設備の計画

①施設・設備整備計画

2022年度の改修計画は、「充実した教育・研究・学習環境の整備に基づいた、安心できる快適な学校生活の創出」を達成するために、費用、緊急度合、安全面を考慮し、学園の資金収支計画に沿った中で実施していく」ことを基本方針とした。これまで、施設設備改修5ヵ年計画（2018年度～2022年度）を策定していたが、資金不足により計画通りに進めることはできなかった。しかし、経年劣化が進んでいる施設・設備については優先し、進めた。その他として、旧お茶の水学院（現池坊華道会東京事務所）に保管されていたポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処分費で29,418千円を支出した。また、ソフト面では、ホームページのリニューアルを実施し、スマホ世代の学生や高校生にも分かり易い機能やデザインとした。

②財政状況に見合った教職員の整備

2022年度教職員整備は、昨年度と比較して次のようになった。

教員体制

(各年度末人数)

年度	職種	文化芸術学科	環境文化学科	幼児保育学科	計
2021年度	専任教員	4	3	3	10
	任期付教員	5	7	4	16
	特別任用教員	0	0	1	1
	計	9	10	8	27
2022年度	専任教員	4	3	2	9
	任期付教員	3	6	3	12
	特別任用教員	0	0	2	2
	計	7	9	7	23

職員体制

(各年度末人数)

年度	職種	学長・IR室	総務部	教育文化事業部	教学部	キャリア支援部	入学広報部	図書館	計
2021年度	専任職員	0	3	0	6	1	2	1	13
	任期付職員	0	1	2	3	2	1	0	9
	アルバイト	0	0	0	2	1	0	0	3
	嘱託職員	1	1	0	0	0	0	0	2
	計	1	5	2	11	4	3	1	26
2022年度	専任職員	0	2	1	8	2	2	0	15
	任期付職員	0	1	0	0	0	0	2	3
	アルバイト	0	0	0	2	1	0	0	3
	嘱託職員	1	2	0	0	0	0	0	3
	計	1	5	1	10	3	2	2	24

【8】学園創立70周年記念事業

「和と美」の建学の精神の下、華道・茶道を中心に日本の伝統文化を学べる学校として、京都においてもひとときわ特色のある短期大学として出発してきた本学園は、2022年に創立70周年を迎えた。創立70周年を機に、池坊学園から、日本文化継承・発展の重要性を社会に発

信し、広い世代に訴求することは、ひいては池坊学園のブランド力の向上につながり、様々なステークホルダーに魅力を感じていただく絶好のチャンスであった。2021年度は70周年プレ企画として、京都を代表する次世代を担う女性講師により、「京都の美～新たにつむぐ女性の感性～」全7回の連続講座を実施した。2022年度は、本学園の華道文化研究所が中心となって創立70周年記念誌を作成した。

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

(1) 2022年度経営状況の分析

2022年度末で経営改善計画（2018年度～2022年度）が終了した。残念ながら本計画に示していた経営改善目標の大方を達成することができなかった。2021年度は、私学事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」のC2を図ることができたが、2022年度の決算では、再度、C2になる見込みである。この要因としては、収容定員数を充足することができなく、特に前受金に影響する2023年度入学生が、133名という規模になったことである。

2022年度決算における収入額は、学生生徒納付金収入や補助金収入および前受金収入などを合わせて総額は、606,846千円となり、2022年度補正予算より、24,171千円の減となった。一方、支出額については、人件費支出や教育研究経費支出、管理経費支出などを合わせて742,668千円となり、2022年度補正予算比、16,566千円の支出減であった。これにより資金収支差額は、135,823千円の赤字となり、その結果、翌年度繰越支払資金は、354,598千円となった。

(2) 今後の方針・対応方策

新年度の事業計画を立てるにあたっては、事業の選択と集中化・重点化を最大限に考慮することとした。大学運営においては、日々に教育研究活動および管理運営体制の充実は怠ってはならない。しかし、より質の高い教育研究を推進していく上にあっても、財政的な裏付けを決して欠くことはできない。つまり、教育研究と経営のバランスを注視しながら、全学が一致して選択と重点化・集中化をより明確にして諸事業を進める必要がある。

また、地域との連携や地域貢献事業も学園における重要な役割であり、学園の持つ資源を有効に活用し、地域から信頼される学園を目指す。しかし、学園の経営状況は日増しに厳しくなっており、2023年度においては経営改善への取り組みを一段と強化する必要がある。

[事業報告書に関する問い合わせ先]

学校法人池坊学園 総務部

電話：075-351-8581 E-mail：admis@ikenobo-c.ac.jp